かさねの色目の花あそび　No.21

【色目】残菊＜のこりきく　表：黄　裏：白＞

冬も近い頃の、咲き残った黄菊と白菊の色のようだ。９月９日の重陽の節句の「菊花の宴」の後、10 月上旬に「残菊の宴」も催されていたらしい。共に旧暦なので、後者は新暦の 11 月上旬か。確かに、咲き残った感じだったのだろう。それはそれで興あり、と平安の風流人。

花材は、淡い黄色のカーネーションと、ほぼ咲ききったオーニソガラム（この花はほんとゆっくりと時間をかけて下から上まで咲ききる）。

かさねの色目の花あそび　No.22

【色目】牡丹　＜表：淡蘇芳　裏：白＞

牡丹の花色には紫・紅・白・淡紅などがあり、いわゆる「牡丹色」は「紫紅色」。この色目をミックスするとそんな色？　いや、もっと薄い紫紅色かも。

花材は、共に、一輪の花がこの色目の 2 色を持ったカーネーションとミニバラ。中国では古来、牡丹は花の王「富貴花」とされ、わが国でももてはやされた。作品はささやかすぎるありふれたものになったが、あしからず。

かさねの色目の花あそび　No.23

【色目】葉桜　＜表：萌黄　裏：二藍＞

二藍とは、藍の上に紅花を染め重ねた明るく渋い青紫色のこと（紅藍と藍の二色の藍で染めたもの）。若年ほど紅を強めに、壮年ほど藍を強くしたとか。葉桜というからには、花が散った後に萌え出ずる若葉との組み合わせなので、もっと紅が強めでも良さそうにとも思うが、『源氏物語』に、光源氏が息子の夕霧に対し「紅みの強い二藍では軽く見られる」と嗜める場面がある。なるほど、紅を抑え、派手にならないよう格調高く、か。

花材はアスパラガスとスターチスに、ゼラニウムも花器口にクシュと入れて緑色をヘルプ。